

中国国内における中国企業の海外直接投資理論の発展について

秋田県立大学システム技術工学部経営システム工学科

宮本 道子 ・ 魯 欣 ・ 工藤 周平 ・ 嶋崎 善章

1960年代以来、先進国の海外直接投資を行う企業について様々な観点からの研究が急速に発展し、先進国の多国籍企業による海外直接投資の動機や意思決定、行動パターンについての理論的研究や実証的研究が実施されてきた。

1980年代に入ると発展途上国における多国籍企業の海外直接投資が増加するようになり、1960年代からの伝統的な理論の限界が指摘されるようになってきている。先進国の多国籍企業に比べて発展途上国における多国籍企業は、いわゆる独占的優位性はないものの海外直接投資の活動を実施しており、投資先も先進国と発展途上国へ同時に分散投資が行われている。

本研究では、中国国内における海外直接投資理論の研究の発展に焦点を当て、海外直接投資の伝統的な理論や発展途上国の海外直接投資理論と比較することを目的とする¹。

海外直接投資を研究している中国の研究者達は、海外直接投資を分析し、海外直接投資を行う企業の優位性、動向、動機、投資方式、場所や業界の選択などを調査している。

海外直接投資の伝統的理論では、様々な優位性を持っている企業のみが海外直接投資を行うとする。一方、中国企業は複数の独占的優位性は持たないが、例えば地域優位性など、ある分野では一定の優位性がある。そして海外直接投資を通じて、海外の多国籍企業の経営・マーケティング戦略などを参考にしながら、中国企業は様々な競争優位性を自社で育成することができる。

経済改革が始まった当初、中国は資本・技術及び有能な人材不足のために、外国投資を導入し技術・経営レベルを向上させる「引進來」を主とした。この期間に、中国企業は導入された技術を吸収、改良、革新して、徐々に独自の優位性に発展させ、自発的に海外直接投資を行う力を養ってきた。2004年10月7日付の *Standard* 誌によると、2004年初頭から中国企業は海外160ヶ国または地域で7,480社を設置してきた²。

中国のWTO加盟後、国内市場では、国内企業と外資系企業の競争がますます激化している。中国企業はグローバル経済一体化を背景に、激しい国際競争に直面しており、必ず、国際競争の意識を高めなければならない。そのため積極的に「走出去」進出し、国際マーケティングを開拓し、外国資源を利用し、国際競争力を強化し、国際競争の主導権を握ることが重要となると思われ、本研究は、そのための新しい理論枠組形成の足がかりとする。

¹ 中国企業の海外直接投資の歴史とケーススタディは、張 鵬 (2008) 「中国の対外直接投資」筑波大学博士 (経済学) 学位請求論文に詳しい。

² Olivia Chung(2004), Outward FDI tops US\$33bn, *The Standard*, October 7, <http://www.thestandard.com.hk/stdn/std/China/FJ07Ad01.html> 平成22年7月27日確認。